

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女ト

男子 女子 3 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
川崎市立高津	28	16	—	6	夙川学院
		12	—	8	
		—			
		—			
		—			
		7mTC			
			14		

今大会 2 勝を挙げ、勢いに乗る高津と地元兵庫の夙川学院の対戦。高津は開始早々の 7 m スローの失敗をものともせず、速攻を中心に怒涛の攻撃で 8 点を連取、主導権を握った。夙川は 3 番中山のカットインで反撃に出るが、高津の勢いは止まらず、焦りの見える夙川のミスに乘じ、3 番中村・7 番佐俣を中心としたスピードある攻撃で点差を広げ、前半 22 分には 14-4 と大きくリードし、その後も落ち着いたディフェンスで相手を勢いづかせることなく前半を 10 点差で折り返した。

後半に入っても高津のリズムの良さは変わらず、11 番湯山・10 番井上のカットイン・ミドルシュートなどで得点を重ね、点差を広げていく。一方、追いかける夙川はエースの中山にボールを集め、ロングシュートなどで得点を返すが、高津の攻守にわたるリズムの良さは最後まで変わることなく、結局 28-14 で高津が今大会 3 勝目を挙げ、準々決勝に進出を決めた。やはり序盤の高津の猛攻がその後の試合の流れを決めた一戦となった。

2016 年 3 月 26 日

記載者氏名 潮海克郎

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女子

男子 女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
高水	28	<table border="1"> <tr><td>17</td><td>—</td><td>15</td></tr> <tr><td>11</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7mTC</td><td></td><td></td></tr> </table>	17	—	15	11	—	12	—			—			—			7mTC			27	府立洛北
17	—	15																				
11	—	12																				
—																						
—																						
—																						
7mTC																						

3回戦、立ち上がりから一進一退の攻防が続く中、高水の11番横田が7mスローを含む2連続得点で点差が3点まで広がった。その後、府立洛北の3連続得点などにより前半11分過ぎには同点に追いついた。対する高水も13分過ぎに再び3点差までリードをし、その後は両チームとも速攻を仕掛けるもなかなか得点にはつながらない時間帯が続いた。前半20分過ぎからはお互いに組み立てからの得点が決まるようになってきた。前半25分過ぎに高水の退場により府立洛北は数的優位を利用して同点となったが、前半28分過ぎに府立洛北が退場者を出して、高水の2点リードで前半を終了した。

後半開始後、府立洛北はダブルポストにするもののなかなか得点できず、高水も府立洛北の堅いディフェンスを破ることができなかった。後半17分過ぎから両チームとも得点が入るようになり、後半22分過ぎには府立洛北が、後半28分過ぎには高水が退場者を出してしまう中、数的に不利であった高水の3番辛島と11番横田が得点を決め、高水が2点リードをした。府立洛北も終了間際に8番南が得点を決めるも、そのままブザーが鳴り、高水が28対27で接戦を制した。

2016年 3月 26日

記載者氏名 真瀬田 英雄

戦 評 用 紙

男二

男子・女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
不来方	24	15	13	北陸
		9	15	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

前日、紀北農芸に延長の末勝利した不来方と、明星に快勝した北信越ブロックの覇者北陸との対戦。不来方スローオフで試合開始。開始早々、不来方3番佐々木のシュートで幕が上がる。前日延長戦を制した勢いそのままに、立ち上がりから不来方の動きに元気がある。20分過ぎまで最大7点差がついた。その間、波に乗る不来方は、ワイドに動くフォーメーションから3番佐々木の個人技、ダブルポストから8番遠藤のカットインシュート、キーパーの好セーブなどで、このまま不来方ペースで試合が続くかと思われた。しかし終盤、北陸も24分以降積極的にDF間に切り込んでいき点差を詰めていく。北陸へ流れが傾きつつある中、前半を終える。後半序盤は両チーム流れを掴めずに我慢の時間が続く。13分過ぎ、北陸タイムアウト。以降流れが変わり、3番中村のカットインシュートなどで同点に追いつく。さらに不来方の退場を機に、完全に北陸ペースとなった。着々と追加点を重ね、粘る不来方を振り切り、逆転勝ちした。

平成 28 年 3 月 26 日

記載者氏名 沖野 勝洋

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

チ

男子 3 回戦

会場 神戸国際大学附属高等学校体育館

コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
近江兄弟社	14	7	18	法政二
		7	18	
		—		
		—		
		—		
		7mTC		
			36	

試合は法政第二のスローインで始まった。最初の得点は近江兄弟社 8 番西村がとるが、すかさず法政

第二の 4 番遠藤が取り返す。双方激しく攻撃を行うが、法政第二は堅い守りから素早い攻撃を行い、

得確実に点を重ねていく。近江兄弟社も果敢に攻撃をおこない、法政第二に引き離されまいと食いつ

いていく。しかしながら、法政第二は 9 番大畠 4 番遠藤を中心に確実に得点を重ね、近江兄弟社を突

き放していく。近江兄弟社は法政第二の守りを破ることができず、苦戦を強いられる。しかしながら、

近江兄弟社は 8 番西村を中心に粘り強く攻撃を行った。

後半も前半同様激しく攻守が入れ替わる展開であるが、ゴール前でシュートに持ち込めない近江兄弟

社に対して、法政第二は確実に得点を重ねていく。そして、得点差はじりじりとしかし確実にひらいて

いく。前半同様法政第二は堅い守りで、近江兄弟社の粘り強い攻撃を防ぎ、確実に得点へ結びつける。

あ近江兄弟社 8 番西村の豪快なシュートで一矢報いるが、試合の大勢は法政第二にあり、攻守に危なげ

なく法政第二が勝利をおさめた。

2016 年 3 月 26 日

記載者氏名 上田 義人